

10/562150
JC10 Rec'd PCT/PTO 23 DEC 2005

(Translation)

Case: Japanese Utility Model Registration No. 2552183

Title: Anti-Slip Member for Writing Utensil

Applicant: Pentel Kabushiki Kaisha, Japan

Claim:

1. An anti-slip member for a writing utensil to be outwardly fitted on a front part of a barrel of a writing utensil, the anti-slip member comprising a substantially tubular resilient member having a resiliency, wherein a roughened surface is integrally formed with an inner surface of the resilient member when the resilient member is manufactured, and the roughened surface is formed by a die which is subjected to a blast working or electric-discharge machining.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 実用新案登録公報 (Y2) (11)実用新案登録番号

第2552183号

(45)発行日 平成9年(1997)10月27日

(24)登録日 平成9年(1997)7月4日

(51)Int.Cl.⁶
B 4 3 K 23/008
3/00

識別記号

府内整理番号

F I
B 4 3 K 23/00
3/00

技術表示箇所
B
F

請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号 実願昭63-167223
(22)出願日 昭和63年(1988)12月24日
(65)公開番号 実開平2-86779
(43)公開日 平成2年(1990)7月10日

(73)実用新案権者 99999999
べんてる株式会社
東京都中央区日本橋小網町7番2号
(72)考案者 佐々木 司
埼玉県北葛飾郡吉川町大字川藤125 べ
んてる株式会社吉川工場内
審査官 砂川 充

(56)参考文献 実開 昭59-53983 (JP, U)
実開 昭55-110288 (JP, U)
実公 昭63-39097 (JP, Y2)
実公 昭63-39096 (JP, Y2)

(54)【考案の名称】 筆記具の滑り止め部材

1

(57)【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】筆記具の軸筒前方に外嵌する筆記具の滑り止め部材であって、前記滑り止め部材は、弾性を有する略筒状の弾性部材となし、成形時においてその弾性部材の内面に粗面を一体的に形成するとともに、その粗面はプラスチック加工あるいは放電加工された金型によって成形されたことを特徴とする筆記具の滑り止め部材。

【考案の詳細な説明】

【産業上の利用分野】

本考案は、筆記具の滑り止め部材に関する。

10

【従来の技術】

従来、筆記具の把持部にゴム製の筒状部材を外嵌して、その把持時の滑りを防止すると共に把持感を向上するといったことがしばしばなされている。

【考案が解決しようとする課題】

2

筒状部材は、一般に軸筒と同径かそれよりやや小径に成形されている。このため、軸筒外嵌時には、筒状部材を若干外方に変形させながら軸筒先端より強制的に挿入するようになるため、作業が困難となりったり、筒状部材に亀裂が生じたりするものであった。

【考案の目的】

本考案は、筆記具の滑り止め部材を容易に外嵌できる筆記具の滑り止め部材を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

本考案は、上述した課題に鑑みなされたものであって、筆記具の軸筒前方に外嵌する筆記具の滑り止め部材であって、前記滑り止め部材は、弾性を有する略筒状の弾性部材となし、成形時においてその弾性部材の内面に粗面を一体的に形成するとともに、その粗面はプラスチック加工あるいは放電加工された金型によって成形された

ことを特徴とする筆記具の滑り止め部材とするものである。

(作用)

ゴム製の略筒状滑り止め部材の内面を粗面とするので、軸筒表面と滑り止め部材との摩擦が少なくなり、容易に外嵌めできるものとなる。

(実施例)

添付図面に示す実施例に基づき詳細に説明する。

第1図は、本考案をシャープペンシルに適用した例で、参照符号1は軸筒であり、芯保護管2を固着した先金3が取付けられ、軸筒1後部にはノックキャップ4が抜き差し自在に取付けられている。5は軸筒1前方に外嵌する弹性を有する略筒状の滑り止め部材である。該滑り止め部材には、滑り止めの機能を更に向上する為に、連続した段部6を形成してあるが、このものは必ずしも必要ではない。また、滑り止め部材の素材としては、弹性を有するものであれば良く、例えば、ゴム系、塩化ビニル系、熱可塑性エラストマー等が利用できる。

第3図は、滑り止め部材を割ったもので、内面5aを粗*

*面にしてある。粗面にする手段としては、例えば、射出成形等の成形方法を取るのであれば、プラスチック加工や放電加工等を利用して金型の筒状部材内面にあたる部分を粗くしておけば良い。また、内面を粗面にする部分は、内面全部であっても部分的に施しても良いものである。この場合、部分的に施せば、滑らかな部分は、軸筒1の表面との摩擦が大きくなるため、外嵌したあと抜けにくくなるものになる。

(考案の効果)

本考案によれば、滑り止め部材自体に粗面を形成することにより、その滑り止め部材を安価に製作することができ、また、滑り止め部材自体の内面に粗面を形成すると云った簡単な構成で軸筒への外嵌が容易になる。

【図面の簡単な説明】

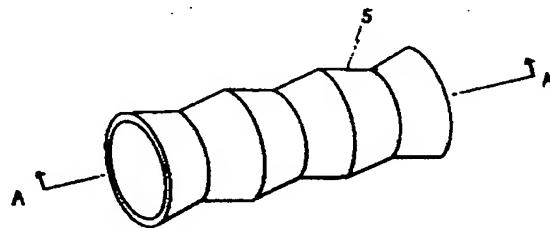
第1図は、本考案をシャープペンシルに適用した外観図、第2図は本考案の外観斜視図、第3図は第2図のA-A線断面をとった外観斜視図である。

1……軸筒、5……滑り止め部材、5a……内面

【第1図】



【第2図】



【第3図】

